令和７年度第１回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会

要点録

○協議会概要

開催日時	令和７年５月１６日（金）１９時００分～２０時３０分
出席委員	新垣 美郁代　会長　　渡邊 郁子　副会長 明石　のぞみ　委員　　齋藤 伸介　委員 浅井 英夫　委員　　後藤 靖治　委員 金沢　久実　委員　　岡田　美保　委員 小泉 勝長　委員　　前山 英之　委員 瀧　真木子　委員　　今泉　幸子　委員 （計１２名）
欠席委員	三浦 未来　委員　（１名）
事務局	健康福祉部長　伊藤　高齢支援課長　五味田 介護保険課長　齊藤　健康推進課長　原島 障害福祉課長　平松　地域ケア推進係長　朝倉 地域ケア推進係　萩原　小林　遠藤 多摩市高齢者在宅療養支援窓口 相談員　淵野　石岡　（計１１名）
公開区分	公開
傍聴者	０名

○議事内容

１　あいさつ

【会長】情報共有の場を活用していく。

【健康福祉部長】多摩市は高齢化の高さに比べ介護保険認定率が低く維持していきたい。

【事務局】今年度から事務局に「在宅療養に必要な連携を担う拠点」としての役割により、健康推進課と障害福祉課が参加。又、異動による変更あり。

２　報告事項

（１）　令和６年度多摩市在宅医療・介護連携推進協議会の活動報告について

【事務局】

資料２を説明。

テーマ「在宅療養者の4つの場面の急変時の対応」

研修：①ベルブ永山にて救急についての講義とグループワーク

②在宅医療をしている山田先生講義とグループワーク

搬送増加　救急病院が少ない。

今後の取り組み：救急キットの活用ACPの普及。

（２）　多摩市高齢者在宅療養支援窓口の令和６年度実績報告及び令和７年度活動計画について

【事務局】

多摩市高齢者在宅療養支援窓口淵野氏から資料３を説明。

（傾向）

・相談数としてはやや減少している。マイナス１０件

・昨年より市民の方が多くなっている。

・内容は医療機関の照会と医療そのものの相談も増えている。混合する病気の受診先。意思決定支援の相談もある。

・医療機関の情報作成し医師会のHPで公開しているのでケアマネジャーの相談が減っているのかもしれない。

（活動計画）

ＨＰ更新でさらに情報を見やすくしていきたい。

医師会と訪問看護ST連絡会をしている。ICTの普及

市境の人に情報提供。

たま広報で在宅療養のPR

【委員】医師会のＨＰへのアクセス数とかは増加しているのか？➡把握していない。

【委員】市民からの相談が増えているのは、電話で相談きることが良い。

【委員】リハビリに対する相談はありますか？➡医療情報で病院外来のリハの情報はない。

訪問リハのデータはある。

【委員】ケアマネジャー部会の中では窓口の認知度は増えているのかなと思う。

(3)「在宅療養に必要な連携を担う拠点」に求められる事項について

【事務局】資料４を説明

【委員】都の目標（イ）の連携について災害時の対応は現状どうなっているのか。

【介護保険課長】個別避難計画について　多摩市では個別避難計画を要介護3以上の高齢者のリストある。

洪水浸水地域の個別避難計画を希望者に作成。

【障害福祉課】洪水浸水地域の医ケア児、人工呼吸器をつけて同意を得ている人に避難計画を立てている

【会長】災害時は個別だけではなくマスの動きでどうしようかということも考えなければならない。

【委員】積極的役割を担う医療機関に求められている役割はどこが取りまとめるのか？

【部長】今は推薦しているところで具体的な今後の進め方は示されていない。情報は随時報告する。

【会長】予算的なものも今後新たな情報が出たら周知する。

３　協議事項

（１）令和７年度多摩市在宅医療介護連携推進協議会のテーマ（案）について

【事務局】

資料５を用いて要点を説明。

テーマについて「入退院支援からの日常の療養支援」がでている。

参考として令和元年度のアンケートのまとめも報告

【委員】入退院時の連携について6年前なので変わっている。できるものとできなくなるものがある。

連携のうまくいくパターンといかないパターンがある。

【委員】アクションは継続する。コロナの頃はカンファレンスはできなかったが今はできる。

【委員】病院により差がある。身寄りがない方。入院期間が短くなっている。病院の事情が左右される、

【委員】退院前の準備はできるようになってきた。しかしながら明日退院するに、家に住めない状況だった。

【委員】ST　入院のサマリーは早く出している。そこで退院時の課題となることを挙げている。退院時カンファレンスができないときの悪化時の相談先が分かるとよい。窓口が大事。

【会長】通院病院が遠方だといけないこともあり、身体の調子と在宅の情報共有ができないと困る。

病院と在宅との連携の事業があるがどのような状況か。

【事務局】東京都の医師会からの依頼で、在宅と病院と交換実習役70名（医師や看護師）参加した。

在宅でどこまでの医療ができるかが実感できると好評。

【委員】病院で退院時カンファレンスができないという病院があったが調整できないと。病床が忙しい。

スピード感がそれぞれ超急性期病院違う。

【会長】入退院はある程度形はできているのではないかと思われるが、大きい病院は外来で、かかりつけ医はいない人が在宅死も多い。本当に具合が悪いので病院に行けない。

【会長】

「入退院支援から日常の療養支援」の方向で決めたい。

一同同意

【会長】次に目標に対する取り組みは具体的にどうするかについて

【委員】　研修会でグループワークを中心にするがいいのでは。

【委員】　退院時カンファレンスに参加する機会が増えた。カンファレンスが必要であるとのPR

【委員】　勉強になるので研修は面白そうなテーマを希望。

【委員】　研修会はこのままでいけると良い。

【事務局窓口】　病院の内部の情報は分かりにくいので研修とグループワークでいいと思う。

（２）令和７年度年間スケジュールについて

【事務局】資料６について説明

一同同意

４ その他

情報提供　参考資料３　心不全サポート事業について

　　参考資料４　脳血管疾患サポート事業について

委員改選について　　令和7年7月～令和9年3月31日

次回日程について　　令和８年２月２０日（金）１９：００～

【会長】　次回の開催日は令和８年２月２０日（金曜日）１９:００開催。

　　会場は未定。

以上